



クラブの揺籃期

■チャーターナイト

1969年（昭和44年）の10月12日、国立音楽大学の講堂で行われた認証状伝達式は「ミュージック・チャーターナイト」と銘打って開催され、全国から105クラブ、1750名が出席しました。

1クラブのチャーターナイトでこれほどの人が集まった例はなく、地区大会にも匹敵する豪華絢爛さは「さすが文教の街、音楽の街のクラブ」と高評をいただきました。

■クラブの創立

東京国立ロータリークラブは1969年（昭和44年）2月23日、32名のチャーターメンバーでスタートしました。創立総会の日が、シカゴの街で青年弁護士のPハリスと3人の友人がロータリークラブを設立した1905年2月23日と同日です。そして創立総会後の3月26日付で国際ロータリーの加盟を承認され、正式にクラブが発足しました。

■クラブの草創期

クラブは歴代の会長・幹事を中心に、すべての会員が「住みよい世の中」を目指して、奉仕の理想を広めようと努力を重ね、クラブの基盤は年と共に確立していきました。

初年度から分区で1位の皆出席を果たし、財団への協力が4,000%という、世界18位の実績もつくりました。また、分区内で最も早くロータリーアクトを誕生させるなど、草創期の奉仕への情熱は、輝かしい記録として現在に生き続けております。

奉仕活動の実績

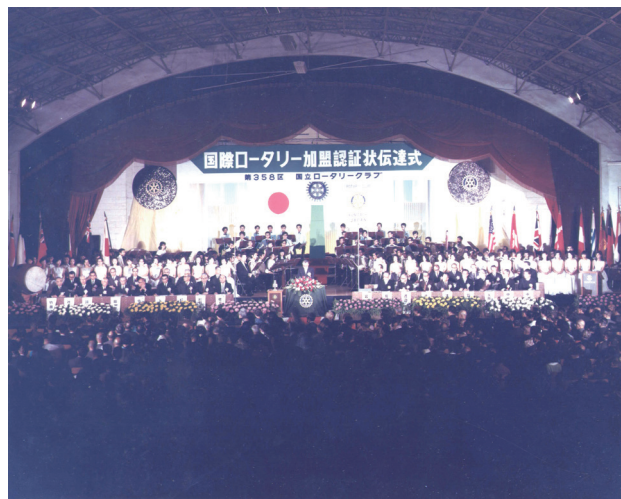
クラブは創立から45年間、奉仕の実践活動として様々な事業を立ち上げ、市内の諸団体へも呼びかけて、定着した行事にまで発展させました。事業内容は一貫して、市内の環境保持と青少年の健全育成に関するもので、その実績は地域から、そして地区からも高く評価されました。

次に、クラブが総力を挙げて取り組んだ奉仕活動のいくつかを紹介します。

■ロータリーの奨学金制度

ロータリーの国際奉仕で最も実績をあげているのが、教育および文化交流活動です。国際奨学事業は3つあり、外国へ留学する日本人に対して、ロータリー財団がその費用を負担するものと、留学経費を受け入れクラブが負担する国際青少年交換。それに日本に留学する外国人を受け入れる米山記念奨学事業です。

クラブでは45年間に、米山奨学生を26名受け入れ、青少年交換学生では派遣が8名、受け入れが6名の実績を残しております。



▲ 1750名が参加した認証状伝達式（1969年10月12日）



▲ 総会後、国立駅で記念撮影（1969年3月23日）



▲ 他人の子供を叱る運動のポスターとワッペン

■他人の子供を叱る運動

1978-79 年度に「他人の子供を叱る運動」を提唱しました。

これは、戦後の高度成長の陰で失われていく社会道徳の喪失を憂い、大人たちが社会の場で子どもたちを育もうと呼びかけたもので、そのユニークさが注目されて、瞬く間に日本中に運動の輪が広がっていきました。

他人に平気で迷惑をかける子供と、それを見て見ぬふりをする親と、何もしないまわりの大人たち、これは日常よく見かける光景です。しかし私たちは何もせずに見過ごしていいのでしょうか。

「これではいけない」「何とかしなければ」という気持ちが発想の原点でした。

この運動は多くの PTA で展開されていきましたが、3 年後には神戸市で全国大会を開催するまでに波及しました。そして東京町田、岩手一関、秋田仁賀保、青森北東など、全国の 20 近いロータリークラブでも、青少年委員会が中心になってこの運動を展開、それぞれの地域で親の自覚を呼びかけました。

この活動により、1983-84 年度に、R I の「意義ある業績賞」をクラブとして初めて受賞しました。

■歳末チャリティ餅つき大会

1981-82 年度から 2 年間、市内の障害者施設（滝乃川学園・神の国寮）で、歳末歳末チャリティ餅つき大会を行い、園児たちを楽しませました。

■ちびっこふれあい合宿

1985-86 年度から、国立市在住の小学生を対象に、夏休みに 2 泊 3 日の「ちびっこふれあい合宿」を開催しました。これは、地域で受け継がれてきた知恵や習慣を、子どもたちが合宿を通して習得し、郷土愛や協調性を身につけさせたいという目的で開催し、継続事業として定着しました。

谷保天満宮を会場に、子どもたちは「座禅」や「竹ぼうき作り」「草履作り」「笹舟作り」などにも挑戦。また、谷保の田園地帯を散歩したり、キャンプファイヤーなど、2 泊 3 日の共同生活で多くのことを体験し、子どもたちに一生の思い出をプレゼントすることができました。

この「ちびっこふれあい合宿」も、R I の 1985-86 年度「意義ある業績賞」を受賞しました。

■ザ・リバークリーン大瀬干

1985-86 年度にクラブが中心になって、農業用水をせき止めて魚を捕る「大瀬干」という戦前まであった行事を復活させました。この大瀬干に、ゴミが投げ捨てられた川を清掃する環境浄化を合わせて「ザ・リバークリーン大瀬干」というイベントにして、毎年 9 月に多くの市民が参加して行われました。

大瀬干は 1998 年まで続けられましたが、活動の成果で川は年々きれいになり、そして当初の目的を達成したことで、14 回を最後にこのイベントを終了しました。この大瀬干も地区のガバナー賞を受賞しました。

■チャイルドライン

チャイルドラインは、イギリスで 1986 年に発足し、年間を通して 24 時間体制で行われており、広く社会に根付いたものになっています。「子どもたちの悩みや不満を、電話で受け止めてやることで、自身の力で解決方法を考え、見つける場を提供する」というのがチャイルドラインの趣旨です。日本では東京世田谷南ロータリークラブの牟田悌三さんが提唱され、現在全国で 10 あまりのチャイルドライ



▲今まで 8 名の交換留学生を受け入れた



▲滝乃川学園・神の国寮で餅つき（1972 年）



▲ちびっこふれあい合宿で竹ぼうき作り（1985 年）



▲農業用水の清掃作業「大瀬干」（1985 年）



▲チャイルドライン、校門で「電話をしてね」とチラシを配る。相談の電話に応じる「受け手」

ンが活動しています。

当クラブは1999年度に「チャイルドライン委員会」を組織し、5月に8日間の期間を儲け、電話の受け手になる地域のボランティアと、クラブの全会員が参加して子どもたちからの電話に応じました。

このチャイルドラインは2000年度も実施され、「子供の日全国チャイルドライン」にも協力して、大きな成果を残すことができました。

■さくらフェスティバルに参加

国立のシンボルでもある桜が咲く4月に開催される「さくらフェスティバル」に、当クラブでは毎年テーマを掲げて参加し、市民にロータリーの存在をアピールしています。近年は子供たちに大人気の「ジャンボバルーン」を担当して喜ばれています。

■秋の市民祭に参加

国立の大学通りでは「天下市」・「秋の市民祭」・「一橋祭」の、3つのイベントが重なる文化の日前後の休日が一番の賑わいになります。その秋の市民祭りに、かつては「チャリティー焼きそば」に参加協力してきましたが、近年は単独で出店してその収益をポリオプラス指定寄付をしています。

■交通安全のランドセルカバー

通学時の子どもたちを痛ましい交通事故から守ろうと、クラブでは42年間にわたって、市内の公立小学校の1年生を対象に、交通安全の黄色いランドセルカバーをプレゼントしています。この功績により2007-08年度、国立市より感謝状を贈呈されました。

■炭の設置による川の浄化

2001-02年度に、環境保全委員会が中心になって川の浄化活動を行いました。谷保の田園地帯にある親水公園の中を流れる川は、生活排水などで汚染が進み、そこに生息するメダカやホタルは絶滅してしまいました。そんな川をよみがえらせようと、上流に炭を設置して水の浄化を試みました。

そして絶滅した多摩川水系のクロメダカを繁殖させて、きれいになった川に戻す「メダカの学校推進委員会」の設立も試みました。

■「命の大切さ」を訴えるポスター展

2007～08年年度、市立中学校1年生を対象に「命の大切さ」を訴えるポスターを募集したところ、3校から73点が集まりました。この作品を市役所や芸小ホールロビーに展示し、最優秀賞3点を選び表彰しました。

ポスター展は新聞でも報道され、活動の成果が認められたことで、継続事業になりました。この奉仕活動も地区のガバナー賞を受賞しました。

■中学生と交換留学生の交流会

2007～08年度「国立市立国立第3中学校で、1年生（2回目は2年生）を対象に、青少年交換留学生と、ローテックスをサポート役



▲さくらフェスティバルでジャンボバルーン



▲秋の市民まつりでジャガバタを販売（社会奉仕）



▲新入生に贈られる交通安全のランドセルカバー



▲川に炭をを設置して水の浄化を図る（2001年） ▲「命の大切さ」を訴えるポスター展（体育館）と最優秀作品（2008年）

にして交流会が開かれました。

中学生にとっては、世界に目を開くチャンスでもあり、留学生にとっても日本の中学校の実態を見ることで、双方ともに貴重な体験になりました。

交流会が成果を得たことで、先生と父母からも要望がでて、毎年継続して開催されることになりました。

この事業を評価され、R I の「四大奉仕部門功労者賞」と地区のガバナー賞を受賞しました。

■塞の神どんど焼き

今年で 37 回になる塞の神どんど焼きに、クラブは 3 回目から参加して何人もの実行委員長を務めました。

どんど焼きは戦中から、しばらく途絶えていた故郷の行事を復活させたもので、故郷をもたない子どもたちに、郷土意識をもってもらいたいという目的があります。

■天満宮参道に「迎春」の横断幕

谷保天満宮は東日本最古の天満宮であり、亀戸天神社・湯島天満宮と合わせて関東三大天神と呼ばれています。

学業の神様として、年間を通じて受験生の参拝が多く、特に初詣は社殿に到着するまでに 1 時間以上も並ぶことがあります。

その参拝者で賑わう参道に「迎春」の横断幕が張られています。初詣に訪れた人たちの、この 1 年の幸せと無病息災を願ったこの横断幕は、クラブの存在をアピールする効果もあり、毎年継続して行っています。

■クリーン多摩川

クリーン多摩川は市内の多くの団体が参加して、多摩川の河川敷に放置されたゴミなどを清掃する作業で、今年の 3 月で 56 回も継続され、当クラブからも毎回参加協力をしています。

クリーン多摩川は 3 月と 11 月に開催されますが、最近では以前と違って放置されるゴミの量が激減し、環境に対する市民の関心が高まったことに加えて、このクリーン作戦の成果も大きいようです。

■東日本大震災復興支援

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、三陸沖で発生したマグニチュード 9.0 の地震と津波によって、東北・関東地方を中心とする広い範囲に甚大な被害をもたらしました。

クラブでは直ちに被災地の復興支援に積極的に参加しました。まず、地区の要請に応じて支援金を贈り、次に「クラブ東日本大震災復興支援委員会」組織し、クラブ独自の支援のあり方を協議して、その実行に努力しました。

■「鎮魂愛の鐘」設置支援

クラブ東日本大震災復興支援委員会では支援先を検討していましたが、ネットで支援を呼びかけていた大船渡西ロータリークラブが進めていた「鎮魂愛の鐘」設立に賛同し支援することにしました。

東日本大震災では、岩手県大船渡市民も 420 余名の尊い命を奪われました。大船渡西 RC は、大震災で犠牲になった多くの人々の冥福を祈るとともに、残



▲鎮魂愛の鐘の落成式 (2013 年 3 月 10 日)



▲継続事業になった「交換留学生と中学生の交流会」



▲塞の神「どんど焼き」



▲初詣で賑わう谷保天満宮参道の「迎春」の横断幕



▲ 28 年も続けられている「クリーン多摩川」



▲環境フェスタで、ゴミの分別指導が定着した



▲文化碑の散策マップ



▲谷保の文化碑の除幕式（1999年）

された者たちが3月11日を風化させないために、大地震発生時の午後2時46分に鎮魂の鐘を鳴らす「愛の鐘設置プロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトには、2地区と国内外の40クラブが協力しましたが、当クラブも100万円を支援しました。贈呈式（2012年6月）に4名、落成式（2013年3月10日）には2名の代表が出席して、復興支援事業の実績を、大船渡港湾岸・サンアンドレス公園内に残すことができました。

■周年事業

クラブでは5年ごとの周年記念事業として、ロータリー財団や米山記念奨学会、そして国立市社会福祉協議会などに基金を寄付してまいりましたが、私たちが住む国立市にも文教都市にふさわしいモニュメントなどを寄贈してきました。

■10周年記念事業

10周年記念では、JR国立駅南口の円形公園内に時計塔を寄贈しました。広い大学通りの向こうに見える、赤い三角屋根の駅舎は国立のシンボルです。そして駅前ロータリーを中心にした国立駅前の広い空間も自慢のひとつです。そのロータリー内の公園に立てられた時計塔は、周囲のどこからでも時刻が読めるよう三面になっていて、多忙な市民にとっては欠かせない存在になっています。

■15周年記念事業

15周年では、市の中央図書館に美術関係の豪華本を寄贈しました。高価なため個人ではなかなか所有できない画集や美術専門書など44冊を、芸術に関心の高い市民が自由に利用できるようにという趣旨です。

■20周年記念事業

20周年記念では、市役所に隣接するくにたち市民芸術小ホールの前に、市内の彫刻家 関 敏氏が製作した石像「髷（ひだ）」を寄贈しました。

モダンな芸小ホールを背景に、人体を模した「髷」は、地球の髷である山や川や谷を抽象化した、国立にふさわしい非常にダイナミックなテーマの石像です。

■25周年記念事業

25周年記念では、ロータリーの拡大事業を成功させました。

「拡大こそ最高の奉仕」を合言葉に、2年あまりの時間をかけて「東



▲今でも中央図書館で利用されている（1974年）



▲国立駅南口・円形公園の中にある時計塔



▲図書館に寄贈された美術関係の豪華本（1984年）



▲25周年に東京国立白うめRCを誕生させた



▲芸術小ホール前に建つ石像「髷」

京国立白うめロータリークラブ」を誕生させました。

4月13日芸小ホールで、当クラブの創立25周年記念式典が開催されたのに引き続き、国立白うめロータリークラブの認証状伝達式が行われました。当日の祝宴は両クラブが共催し、ガバナーをはじめ多数の来賓と共に白うめクラブの誕生を祝いました。

■ 30周年記念事業

30周年記念は、谷保地域にある散策路に、国立に在住した文化人の文学碑を5カ所に建立し寄贈しました。

のどかな田園風景が広がる国立市の谷保地域は、古い神社やお寺、郷土文化館、それに城山や古民家（こみんか）などもあって、休日には市外からも訪れる多くの人たちで賑わいます。その散策コースに記念の文学碑は点在していますが、「文教の街くにたち」の原点である谷保は、梅の香と共に、文化の香りも楽しむことができます。

■ 40周年記念事業

●市民芸術小ホールへ、舞台袖幕と一文字幕一式を贈呈

くにたち市民芸術小ホールはオープンして21年が経ち、施設の老朽化も日立ってきました。そこで、舞台袖幕と一文字幕を新調して贈呈しました。

●記念コンサート

クラブの創立時や周年事業を開催した折に、会場を音楽で彩ったのが国立音楽大学の学生とOBで、華やかな演出は「さすが音楽の街。国立」と賞賛されました。

また、将来性のある若手音楽家の育成にも力を注いできたわがクラブは、40周年の記念事業として、くにたち市民芸術小ホールで国立音大のOBによる「マイ・フェア・レディ」を上演しました。

●友情の奨学金

日本独自の奨学制度である米山記念奨学金は、主に東南アジア諸国の留学生を対象としています。しかし、パシフィック・ベイスン・グループ(PBG)はRIの第2750地区の9番目のグループであることで、この制度を利用できません。

そこで、2007年に東京広尾RCが「友情の奨学金」を設立し、グアム大学の学生を対象にして奨学金を支給することにしました。当クラブもこの制度に賛同して、創立40周年の記念事業の一環として、グアム大学のリシェル・カルロスさんに、1万ドルの奨学金を支給しました。

●ケニア・ジュキニ地域における「水」プロジェクトを支援

アフリカなど、水に困っている国々に対し、水を容易に確保できる「上総掘り」の技術の普及活動をしているIWP（インターナショナル・ウォーター・プロジェクト）に賛同し支援しました。当クラブの支援は井戸のポンプの購入費に充てられました。

■ 45周年記念事業

●タイの病院に医療器具を寄付

第1回はロータリー財団補助金MG（マッチング・グラント）を利用し、東京世田谷RCとタイ国・サラブリRCをパートナークラブに、タイ国のサラブリ病院に麻酔器を贈呈しました。

第2回はロータリー財団補助金GG（グローバル・グラント）を利用して、東京八王子東RC、東京世田谷RC、サラブリRCをパートナークラブに、タイ国のノンカエ病院に医療用ベッドを贈呈しました。

■むすび

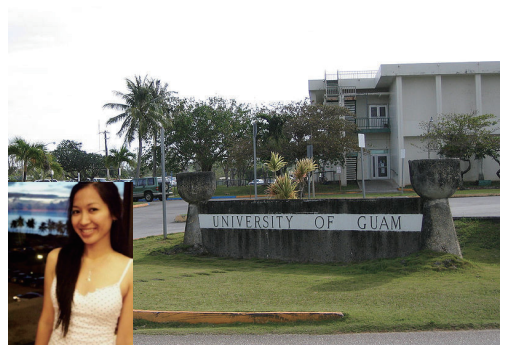
45年間の実績はクラブの誇りであり、揺るぎない友情は会員の宝です。今後も良き伝統を継承しながら、輝かしい未来に向かって、高い理想と行動力で世界の平和に役立ちたいと願っています。



▲新調した舞台袖幕と一文字幕（市民芸術小ホール）



▲ミュージカル「マイ・フェア・レディ」を上演



▲グアム大学と、奨学金を受けるカルロスさん



▲水の確保は保健、飢餓救済、識字率の向上になる



▲タイ国のノンカエ病院に贈呈された医療用ベッド